

国保料の大幅引き下げを！

請願に対し、市も各議員も国保料は高い 道生連の請願

道生連は「国民健康保険料の大幅引き下げを求める請願」を市議会に提出し、請願署名を集めてきました。2/21に請願の趣旨説明が議会厚生委員会で行われ、請願署名はこの日までに1153人分となり、守る会会員など30人以上が傍聴しました。

趣旨説明を行った北区の石谷悦子さんは「自営業をしていた時に月額6万円もの保険料でとても払えないと区役所に相談したが、ひどい対応をされた。3月で夫が今の仕事を辞めると年金と自分の障害年金だけになる。払いたくても払えないほどの保険料を引き下げてほしい。生活実態に見合った保険料にしてほしい」と、切々と訴えました。



市長も国保料の「負担は軽い」、議員も高い保険料を考えるべきだ

自民・民主・市民ネットの各議員の質疑の中でも、「札幌の高い保険料を何とかしなければならない」というものでした。所得150万円で4人世帯では19政令市の中で札幌市が5番目に高い保険料であることや、単年度7億円の黒字になった一引き下げに全部使用したら1世帯あたり2千円余の引き下げ/年、1万円の引き下げには30億円が必要等と答弁がありました。

共産党の伊藤りち子市議は、資格証明書で受診できず手遅れ死した51歳男性の例を紹介しながら、保険料が高いという認識はあるのか、保険料引き下げや資格証の交付を質問しました。市は「市長も言っているが決して負担が軽いとは言えないと考えている、納付困難な人には相談をし、資格証は機械的に出さず病院への支払が困難な人には保険証を交付している、保険料が上がらないように独自の繰り入れもしてこれ以上は困難」等と回答。伊藤市議は、市が繰り入れで努力しているとしても、今でもこれだけ払いたくても払えない実態があり、国保料の引き下げを検討すべきであると述べました。請願は採決の結果、継続審議となりました。

高齢者と介護従事者350人 怒りの高齢者パレード

2/20高齢期運動連絡会が主催した「怒りの高齢者パレード」が行われました。高齢者60人と道民医連の交流集会に参加した介護従事者290人が合流し、札幌中心街を一人一人がマイクで要求を訴えながらアピールして歩きました。

パレード前の学習会では吉岡道社保協事務局長による社会保障と国会の情勢を学び、参加者からは今の政治に対する怒りの声が出されました。



SOS ネット街頭相談会 38人がくらしや雇用の相談に

雇用・くらし・SOSネットワーク北海道の8回目の街頭相談会が2月16日、札幌地下街オーロラスクウェアで開催されました。

この日は38人が相談に訪れ、41件の相談（ホットラインへの相談が他に6件）ありました。弁護士、司法書士などをはじめ相談員、支援スタッフは68人でした。

当日に2人が生活保護申請をし、5人が翌日以降に保護申請を行うことになりました。年度末が近いせいか労働相談が12件と最も多くありました。

